

屋根補修工事

2001年4月9日
施工 桜田板金工業所

4月4日(水) 屋根を点検し雨漏りしている個所と漏りそうな個所を見つける。

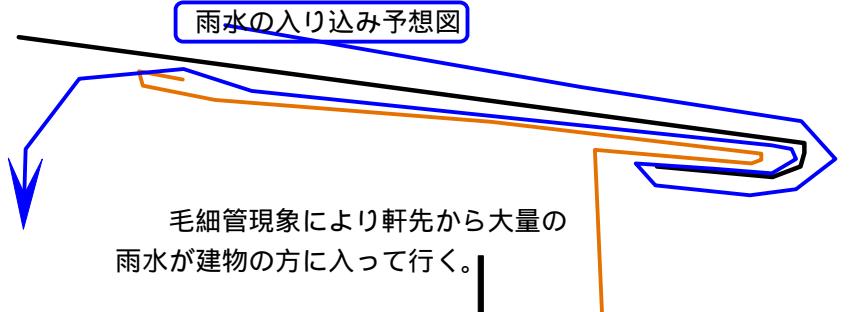
屋根軒先 もっとも雨漏りしている個所で下の写真の様に屋根をめくり上げて見ると、長い年月をかけて大量の水が入っている。
雨水と一緒にほこりなどを吸い込み雨が上がり晴れて乾けば入ったほこりだけが残される為。
写真で見るとすごい量と言うのが分かるはずです。



この部分が雨水と一緒に入り込んだほこりが乾いて残っている所。この屋根全体でこの様になっていました。



雨水の入り込み予想図



毛細管現象により軒先から大量の雨水が建物の方に入って行く。

今回とった対策
軒先から水が毛細管現象を起こさない様に隙間を作る。

(空けすぎると屋根が風に対して弱くなり、強く締め過ぎるとまた毛細管現象が起こってくる。非常に微妙な納め方)



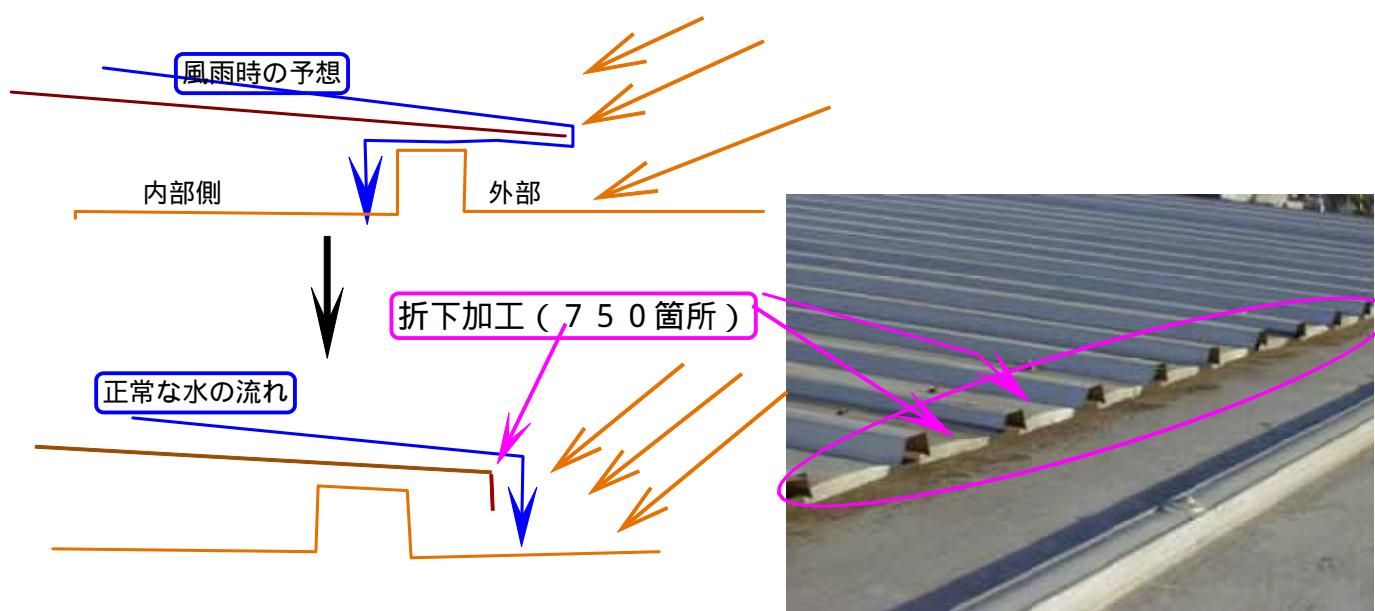
雨水が正常に流れて行く様子



743箇所軒先を折り曲げる

ルーフファン上部

波板の両端部が曲加工していない為、風を伴う雨の場合に中に入ってしまう。



前回シート防水で施工し雨漏りがなったという所ですが、良く見ると軒先の唐草が切断され雨水が吸込んでも建物内部まで行く前に桶に落ちてしまう様になっていました。

したがって、シート防水でなったというよりも軒先部を処理したからだと思います。

今回も屋根の重ねにアルミテープを貼る施工を指示されました、その施工方法ではほとんど効果がなく無駄な施工になってしまふ為に今回は行っていません。

軒先の桶取り合い部を下から見た所



軒唐草が切断されている部分



2号棟渡り廊下上部雨漏り

上部笠木部から雨漏りと言われましたが、元のテープとコーティングを全部除去して見ましたがそれほど漏っているようではありませんでした。おそらく下の写真の様に雨押えの中にごみが沢山入り込んでいて、水を吸い上げ、結果漏って来たのではないかと思います。



木屑や埃などがいっぱい入っていました。

対策として、上部笠木部は両方の笠木をビスで接続し、変性シリコンをぬり、コーティングの劣化防止用にアルミテープを貼る。



コーティングとアルミテープをすべて除去する



左側の正面戸のごみをすべて除去して、新たにコーティングをぬる。



専用プライマーを塗った所

専用プライマーをぬり、変性シリコンをぬる



変性シリコンを塗り雨押えのエプロンを元に戻す



コーティングの劣化防止用のアルミテープを貼る



棟取り合いに新規に大きな棟を取付ける。（50m分施工する）

既存の棟全体にコーティングが塗ってあり、雨水が入っても出口が無く建物内部に漏れ出ているものと思います。



下地と新規の棟の取付け状況

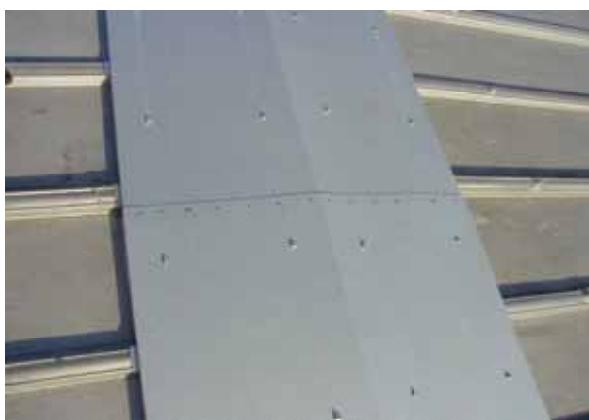


棟下地に $t = 0.5$ の角波
を利用する



新規棟の接続状況

重ねに両面テープを貼り耐水リペットにて接続する



棟は下地の角波にパッ
キン付ビスにより取
付け



専用プライマー、変性シリコンをぬり
コーティング劣化防止用のアルミテープを貼る

新規棟の取付け状況（完成）

